

都市生活生協支援

第12号  
1995.7.11

# 救援ニュース

都市生活現地救援本部  
西宮市今津山中町9-9  
電話：0798-36-6679

現地救援本部  
**INFORMATION**

7/14 (金)  
救援青空市  
須磨区弥栄台仮設住宅

7/15 (土)  
仮設住宅交流会  
明石市中崎仮設住宅

詳しくは現地救援本部まで  
TEL 0798-36-6679

## 都市生活生協の仮設住宅交流会に参加して

KTH福祉事業所

代表 橋本 哲也さん

私達、KTH福祉事業所は、体の不自由な重度身体障害者の「社会参加と自立と平等」のための小規模通所作業所です。通所利用の6名は電動車椅子で通勤し、地域社会で、「季節の鉢花や園芸用品」を売ることで、自立生活が出来るように経済的な面も含めて、その基礎づくりをしています。

KTH福祉事務所に来ているような、重度身体障害者は普通、施設に收容管理されるか、自宅に閉じこもっている者がほとんどで、KTH福祉事業所のような小規模通所作業所を増やすことが、今、重度身体障害者の要求になっています。

KTH福祉事業所は、販売に関して、よい商品を安く売ることが出来るシステムを取っています。都市生活生協とも通ずるところがあったのか、ある日、地域に住む都市生活生協の方が、近くの仮設住宅で交流会を開くので、仮設住宅の人に鉢花を配り、その上でバザー形式の販売もできないかとの問い合わせをしてくださいました。

私達は、作業所を開設するまで、バザーを6年間していたので、それにも充分対応できました。さっそく参加させてもらいました。交流会は、作業所(=花屋の店舗)の近くだったので、約束の時間に自動車一台いっぱいの花を積んで、仮設住宅のある公園に行くと、いつもよ

く出会うお母さんたちが、手際よく荷物を運んでくれました。

あわてて値段札をつけると端から売り出し、2時間で全部売りつくしてくれました。仮設住宅の人が、本当に喜んで花を持ち帰ってくれる姿に、嬉しくなりました。

その後、その近くの仮設住宅にの人が、花を植える鉢や土が無いので、店に買いに来てくれたり、配達していると、そのほとんど人が一人暮らしのお年寄りで、正直驚きました。

話をしていると家屋の崩壊で、植木などに関しては、まず全部を失っている事を知りました。長年育てて、心をなごませてくれた、花や木たちを失う悲しさを補うことはできませんが、「一時でも、役に立てたら。」と感じました。

都市生活生協の人たちは、その仮設だけでなく次々と交流会を開くとの事。そして花のプレゼントがとても良かったとの事。私達も、喜んでもらえた事。都市生活生協のさわやかな人たちと出会えた事。これをきっかけに、仮設住宅交流会に次々と参加しました。

自分たちも企画して、伊丹の社会福祉協議会と仮設交流会を開きました。仮設住宅交流会も、KTH福祉事業所として、7ヶ所参加させてもらいました。どこに行っても、お花を喜んでくださって、こちらが感動しました。

そして、とにかくどこでもお年寄りの多いのに驚きました。お年寄りを優先したこともあるのですが、これから2年後、この仮設住宅の廃止で、あの人たちがどうなるのか、心配でなりません。ただ、都市生活生協のお母さんたちを見ると、こういった明るく賢い人たちがいるかぎり、「この社会もなんとかなるだろう。」と感じました。都市生活生協の人たちと交流して、私達KTH福祉事業所と同じところがあると思いまし

た。

障害者問題を考えるとき、それを社会問題として扱うと大きな政治力が必要になって、結果出て来るものは、大抵美辞麗句を並べただけの内容の無いものが多いので、実際、障害者の受けている差別や自立などへの障害は、何も解決されることがないものです。ただ、問題を解決する方法は、一人一人の庶民が、聡明でしっかりした問題意識と、自分の判断を持つことだと思います。都市生活生協の人たちには、それが感じられました。

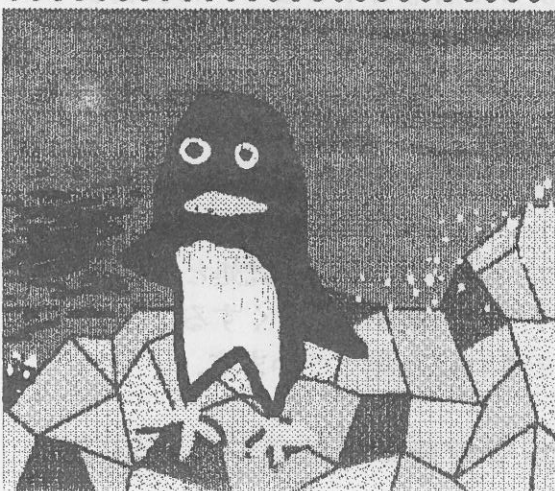
いっしょに花を売っていて気持ち良かったのも、そう感じられたからです。

障害者の社会参加と自立と平等。これは役所のパンフレットの表紙に書いてあるのですが、KTH福祉事業所では、お店で花を売るだけで、そのすべてが完全実施されています。もし障害を持って、役所に行く、安全のためや家族のため、地域社会のためと言って、施設を紹介されるでしょう。それも社会参加と自立と平等になる、と説明付きで。

確かに、都市生活生協のような人たちが社会に少なければ、それもしかたないことと言わざるを得ません。世の中で、主婦が、お母さんが、そして女性が、賢くならわれないと、障害者の問題は、複雑で歪曲され、政治的になって、今ここに生きる人間を苦しめることになってしまいます。その意味で、都市生活生協の方々に、期待と希望を持っています。

♡♡♡ 連絡先 ♡♡♡

KTH福祉事業所  
代表 橋本哲也  
尼崎市富松町1丁目37-10  
TEL06-423-5040



都市生活現地救援本部ではこれまで3回にわたって、ユー・アイ・アソシエーションの活動に協力してきました。このたび、代表の赤松さんから活動内容のご報告をいただきましたので、ここに掲載いたします。(編集部)

### 《私たちボランティア活動と今後の活動》

社会福祉・ボランティア団体 「ユー・アイ・アソシエーション」

赤松 弘揮さん

私たちの団体は現在約50名の会員さんが、「自分の時間を大切にしながら」活動に参加してくださっております。当初は神戸大学OB数名による社会福祉に関する勉強会を行ってきた団体でした。しかし、今では一般会員も多数活動参加してくださり、日々一般会員数が増えています。また、ボランティア同士のネットワークによって、大きな活動のときは約120~130名が頑張っています。私たちのボランティア活動は阪神大震災発生後すぐ遺体安置所でのドライアイスの不足による手配と配送を行いました。続いて、母校神戸大学生39名の死亡学生の「除箱取り扱い」に対し、この震災で亡くなった、すべての学生・生徒への「卒業証書の授与」を求めて神戸を中心に署名運動を行い、約3500名の皆様のお心を神戸大学教授を通じて文部省に提出いたしました。

その後に行った活動は次の通りです。  
・西宮市内において被災児童とのグループワーク(遊びの指導)活動  
・避難所、仮設住宅、テント生活者への巡回訪問、飲料水配布、生活相談を実施。  
・4月27日、兵庫県主催の「震災復興100日祭」企画委員として参加。  
・《ふれあいフェスティバル》の開催。  
震災後、いまだに避難所に暮らす人々の間での心労は、はかりしれないものであり、また、仮設住宅に入居しても老人の孤独死が目立っている。「阪神大震災」はそれぞれの心の中に大きな傷を残している。しかも、人と人とのつながりさえも断ち切ってしまった。わたしたちは、そうした人たちの心の安らげる場所として、また、人と人とのコミュニケーションの場所として継続的に活動している。  
第1回 5/28 神戸市灘区 稗田小学校 避難所対象 参加者約1500名  
第2回 6/17 西宮市 夙川西

市民館 避難所・仮設住宅対象  
参加者約200名  
第3回 6/25 西宮市 鳴尾浜臨海公園 仮設住宅対象 参加者約500名  
第4回 7/8(予定) 神戸市 須磨海水浴場

こうした活動の継続とともに、今後は社会福祉施設への見学会・勉強会の開催、福祉施設での《ふれあいイベント》の開催などを計画しています。地域社会とのコミュニケーションを大切にしつつ、地域社会を越えた交流も必要と考えています。

こうした活動に一人でも多くの方のご協力とご参加を当会スタッフ一同心よりお待ちしております。またボランティア同士の交流会、協力活動も行っていますので、是非ともご連絡ください。

#### ♡連絡先♡

「ユー・アイ・アソシエーション」  
☎664 伊丹市北野5-24  
赤松 弘揮  
☎0727-77-8066・030-629-9362

☆☆☆★★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 都市生活に出会って

現地救援本部スタッフの池田が所属する芦屋のボランティアグループを取材に来た記者さんが、そこで都市生活の名前を聞いて興味を抱き、密着取材をしてくれることになりました。(編集部)

神戸新聞記者  
たいじ 鯛治 裕子さん

駆け出し記者の私が、芦屋のボランティアグループで耳にした「おもしろそうな人」池田さんをやっと捕まえたのが、出稼ぎ先という都市生活生協。ところが約束の青空市に合流できず、現地救援本部の座敷に上がり込んだまま「都市生活って何だろう? 何だって生協に救援本部なんてあるんだろう? 一体この忙しそうなたちになんか質問したらいいんだろう?」とおいしいヨーグルトをいただきながら、途方にくれたのがずいぶん前のことのように。

青空市や救援本部の説明を受けながらも、会う人皆に「私はここの人間じゃないので」と笑顔を向けられ、余計に混乱。そんな私をみかねて、池田

さんに「じゃ、一緒に引っ越しに行きましょう」と促されるまま、元町の全壊した旧家へ。文字通り汗水たらして被災者のたんすを運ぶ小松さん、砥上さん、池田さんの姿に、半年近く変わらずに阪神の復興に力を注いでくれたのだと教えられました。

引っ越しの合間に聞いた、全壊した旧家を手放すお母さんの苦労話や、引っ越しの後盛り上がるお国自慢。生協が地域のコミュニティーを大切にすると、と言う意味が言葉ではないもので伝わってきました。地域を共同体として捉え、地道な復興にいそしむ都市生活のスタッフ、組合員さんたちにもうしばらくご厄介になって、どうぞ私に一本書かせてくださいね……。

### 現地救援本部

## 新スタッフ紹介

生活クラブ連合会

くらがた まさのり  
倉形 正則

生活クラブ連合会の開発部より参りました倉形と申します。7月3日より2週間の予定で手伝いに来ました。2週間といえば、あまりまとまったことができる期間ではありませんが、できる限りのことをするつもりです。

この2週間を新たなきっかけとして、帰京してからも此処と彼の地のパイプを、僅かでも太くすることに貢献できればと思っています。

♡♡♡♣♡♡♡♡♡♡♣♡♡♡♡